

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率 月次指標の早期推計：6月レポート

野村亮輔（副主任研究員）
稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 上席研究員）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: contact@apir.or.jp

ポイント

●7月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

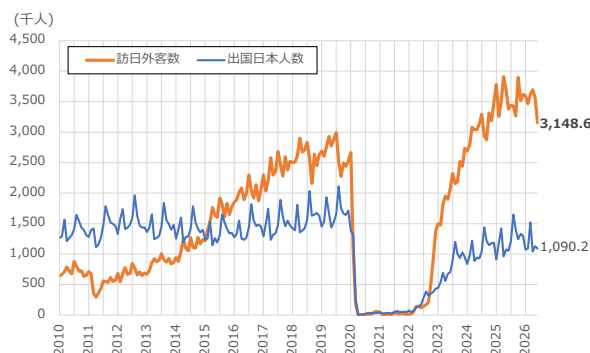
▶JNTO 訪日外客統計によれば(図 1 及び表 4)、6 月の訪日外客総数(推計値)は 314 万 8,600 人であった。前年同月比-6.8%、3 カ月連続のマイナス。中国政府の訪日自粛要請による中国人客減少の影響が続いている。また、同月の出国日本人数は 109 万 200 人、同+3.4%と 4 カ月連続のプラスとなった。なお、2019 年同月比では-28.3%と前月からマイナス幅(同-21.6%)は拡大しており、アウトバウンド需要は依然低迷している。結果、1-6 月累計の訪日外客数は 2,108 万 4,800 人となった。前年同期比-2.0%となり、上半期としては 22 年以来の減少に転じた。一方、同期の出国日本人数は 694 万 4,570 人(同+5.1%)であった。

▶訪日外客数のトップ 5 を国・地域別にみると(図 2 及び表 4)、6 月は韓国が 78 万 7,100 人(前年同月比+7.8%)と最多を記録した。次いで台湾が 67 万 400 人(同+14.6%)、米国が 35 万 4,500 人(同+2.7%)、中国が 34 万 700 人(同-57.3%)、香港が 21 万 4,300 人(同+28.5%)と続く。日中関係悪化の影響もあり中国人客は 7 カ月連続で大幅減少した。

▶目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば(表 5)、4 月は 369 万 2,364 人となった。前年同月比-5.5%、3 カ月ぶりのマイナスに転じた(前月：同+3.5%)。うち、観光客は 334 万 6,567 人で、伸びは同-6.7%と 3 カ月ぶりのマイナス(前月：同+2.3%)。また、その他客は 24 万 8,582 人、商用客は 9 万 7,215 人であった。伸びをみれば、その他客は同+14.1%で、2 カ月連続のプラス。一方、商用客は同-6.6%と、3 カ月連続のマイナスとなった。

▶先行きの訪日外客を考える上で、日中関係悪化と中東情勢混乱という顕在化しているリスクに加えて、「令和 8 年熊本地震」の影響が新たなリスク要因となろう。参考として 2016 年に発生した「平成 28 年熊本地震」の影響を、熊本県における日本人及び外国人宿泊者の推移から確認しよう(図 3)。外国人宿泊者は地震が発生した 4 月以降、大幅減少しており、発生前の水準を回復するのに 1 年程度を要している。一方、日本人は「九州ふっこう割」等の影響もあり、早期の回復となっている。今後、復興が進むにつれてインフラなどが整備され、地震の影響が徐々に薄まっていくことが期待されるが、課題は風評被害対策である。特に訪日外客に対しては多言語対応した正確な情報を確実に発信することが重要となろう。

図 1 訪日外客数及び出国日本人数の推移

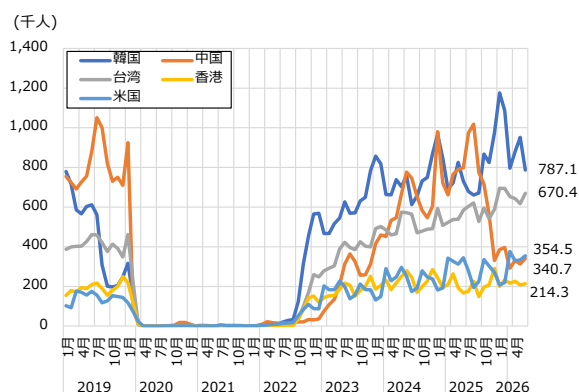


注：2024 年まで確定値、25 年、26 年 2-4 月は暫定値

2026 年 5-6 月は推計値

出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

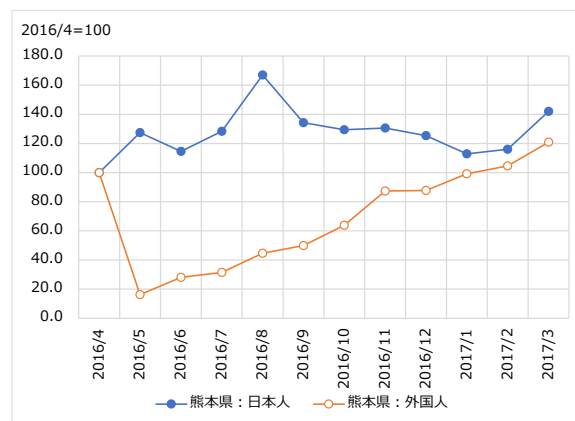
図 2 上位 5 カ国・地域別訪日外客数の推移



注：なお、TOP5 の国・地域は値を表示している

出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

図 3 日本人及び外国人宿泊者の推移からみた
「平成 28 年熊本地震」の影響



出所：観光庁『宿泊旅行統計調査』より筆者作成

*なお、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の訪問率のデータが 2023 年 9 月から公表が再開された。このため、中断していた訪問率の月次推計についてはデータの蓄積を待って今後再開する予定である。

トピックス 1

●6月関西の財貨・サービス貿易の動向

▶**関西6月の輸出額は**前年同月比+22.5%と**21カ月連続の増加**、4カ月連続で2桁の伸びを記録した。AI関連需要の爆発的な拡大もあり、半導体関連輸出が引き続き好調であった。また、**輸入額は**同+24.0%と5カ月連続の増加。結果、**関西の貿易収支は**+3,344億円と**17カ月連続の黒字**となり、前年同月比+14.8%拡大した(図4)。

▶対中国貿易動向をみると(図5)、**関西6月の対中国輸出は**前年同月比+33.6%と**4カ月連続で増加**した。輸出増に寄与したのは、半導体等電子部品や原料品等であった。また、**対中国輸入は**同+29.4%と**8カ月連続の増加**。輸入増に寄与したのは衣類及び同附属品や通信機等であった。結果、対中国貿易収支は-460億円と2カ月ぶりの赤字となった。

▶**6月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は70万3,763人**であった(図6)。前年同月比-21.2%と**7カ月連続で減少**し、且つ**3カ月連続で2桁のマイナス**となった(前月：同-15.5%)。なお、1-6月期では前年同期比-14.5%と2022年以来のマイナスに転じた。中国人客の訪日自粛の影響もあり、外国人入国者数は弱い動きを示している。また、日本人出国者数は20万5,817人であった。前年同月比+5.7%と4カ月連続の増加。なお、2019年同月比では-30.3%となり、アウトバウンド需要の回復は依然遅れている。

▶サービス業の生産活動を示す**第3次産業活動指数(季節調整済み)**：2019-20年平均=100)をみれば(図7)、6月は106.7で前月比-0.2%と**3カ月ぶりのマイナス**となった(前月：同+0.8%)。経産省は基調判断を「一部に足踏みがみられるものの、持ち直し傾向にある」と前月から据え置いた。一方、**対面型サービス業指数***は106.6で同+0.2%、**2カ月ぶりのプラス**(前月：同-0.1%)。うち、運輸業、郵便業(同+4.4%、2カ月ぶり)や学習支援業(同+0.5%、2カ月連続)が上昇に寄与した。**4-6月期の第3次産業活動指数**は前期比+0.6%と**6四半期連続で上昇**した(1-3月期：同+0.7%)。一方、**対面型サービス業指数**は同-0.3%と**7四半期ぶりに低下**した(1-3月期：同+0.6%)。

▶6月の**観光関連指数****(季節調整済み：2019-20年平均=100)は(図7)、109.3と前月比-3.7%低下し、**3カ月ぶりのマイナス**(前月：同+1.7%)。うち、宿泊業、飲食サービス業(同-5.6%、2カ月ぶり)や劇場・興行団(同-10.3%、2カ月ぶり)が低下に寄与した。結果、**4-6月期の観光関連指数**は前期比-0.4%と**2四半期連続で低下**した(1-3月期：同-0.7%)。

*対面型サービス業は、「運輸業、郵便業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「学習支援業」及び「医療、福祉」を指す。

**観光関連指数は第3次産業活動指数のうち、「旅客運送業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「旅行業」、「映画館」、「劇場・興行団」及び「公園、遊園地・テーマパーク」の各指数の加重平均。

図4 関西 対世界貿易の推移

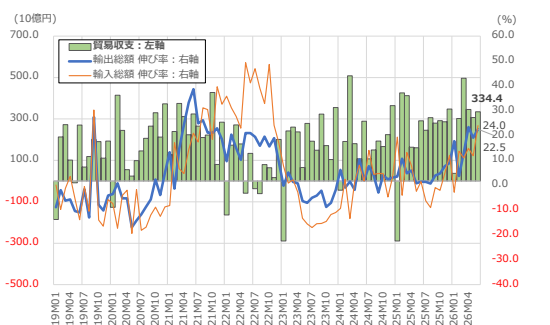
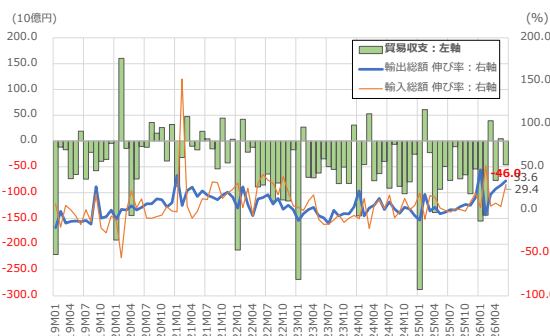


図5 関西 対中貿易の推移



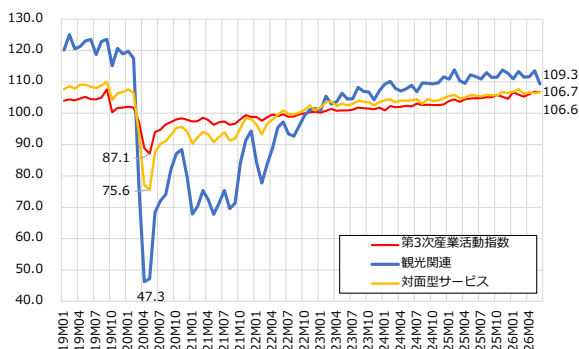
出所：『大阪税関貿易速報資料：近畿圏』
より筆者作成(図4~5)

図6 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所：出入国管理統計より筆者作成。2026年6月値は速報値

図7 観光関連 対面型サービス 第3次産業：2019-20年平均=100



出所：経済産業省「第3次産業活動指数」より筆者作成

トピックス 2

●4月延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶観光庁によれば、4月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は**10,693.3千人泊**(表1)。前年同月比**-11.8%**と7カ月連続で減少し、減少幅は前月の同-6.3%から拡大した。

▶日本人延べ宿泊者数は**6,358.0千人泊**となった。前年同月比**-8.5%**と7カ月連続で減少した(表1及び図8)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府2,064.3千人泊と最も多く、次いで、兵庫県1,033.8千人泊、京都府1,000.9千人泊となった。また、三重県686.6千人泊、滋賀県374.1千人泊、和歌山県324.7千人泊、奈良県244.6千人泊、福井県224.0千人泊、鳥取県221.3千人泊、徳島県183.8千人泊であった。関西4月の前年同月比(-8.5%)に対する寄与度をみれば、減少に寄与したのは、大阪府(同-6.5%ポイント)、福井県(同-1.2%ポイント)、京都府(同-1.0%ポイント)等の6府県であった。

▶外国人延べ宿泊者数は**4,281.3千人泊**であった(表1及び図9)。前年同月比**-16.4%**と10カ月連続で減少した。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府2,092.9千人泊、京都府1,686.2千人泊と2府への集中が続いている。また、兵庫県204.8千人泊、和歌山県94.8千人泊、奈良県56.1千人泊、滋賀県50.0千人泊、三重県38.2千人泊、徳島県25.4千人泊、鳥取県20.3千人泊、福井県12.8千人泊であった。関西4月の前年同月比(-16.4%)への寄与度をみれば、京都府(同-8.9%ポイント)、大阪府(同-7.5%ポイント)、三重県(同-0.4%ポイント)等の6府県が外国人延べ宿泊者の減少に寄与した。

▶なお、宿泊料金と賃金との交易条件(現金給与総額/宿泊料金：2019年=100)をみれば、2026年6月は84.5となった。前年同月比+0.3%と小幅ながら39カ月ぶりの改善となった。賃金上昇が5カ月連続で3%超となったことに加え、宿泊料金の伸びが縮小(5月：同+4.8%→6月：同+3.1%)したことが影響した(図10)。

図8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

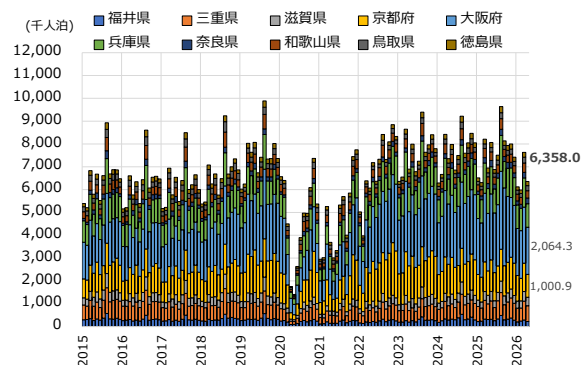


図9 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

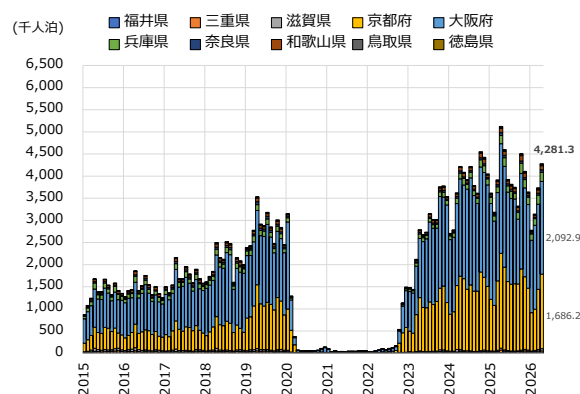


図10 宿泊料金と賃金の交易条件



注：交易条件は賃金(現金給与総額)を宿泊料金(消費者物価)で除した指数。2019年平均を100

出所：総務省統計局『消費者物価指数』及び厚生労働省『毎月勤労統計調査』より筆者作成

表1 関西 延べ宿泊者数伸び率：4月

	総数				日本人				外国人			
	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	当月寄与度 (%ポイント)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	当月寄与度 (%ポイント)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	当月寄与度 (%ポイント)	前年比伸び率： 前月(%)
福井県	236.8	-26.4	-0.7	-10.4	224.0	-27.6	-1.2	-10.8	12.8	1.9	0.0	3.6
三重県	724.7	-2.1	-0.1	1.4	686.6	0.5	0.1	0.2	38.2	-33.3	-0.4	34.9
滋賀県	424.1	1.2	0.0	9.5	374.1	-0.4	-0.0	8.8	50.0	15.1	0.1	18.2
京都府	2,687.1	-16.5	-4.4	-9.2	1,000.9	-6.7	-1.0	-4.3	1,686.2	-21.4	-8.9	-13.3
大阪府	4,157.2	-16.7	-6.9	-12.5	2,064.3	-18.0	-6.5	-18.3	2,092.9	-15.5	-7.5	-3.6
兵庫県	1,238.5	-2.8	-0.3	2.2	1,033.8	-5.3	-0.8	-3.3	204.8	11.4	0.4	56.7
奈良県	300.7	7.3	0.2	1.9	244.6	12.4	0.4	2.6	56.1	-10.5	-0.1	-2.3
和歌山県	419.5	6.3	0.2	0.9	324.7	9.3	0.4	0.3	94.8	-2.9	-0.1	4.0
鳥取県	241.5	26.1	0.4	34.1	221.3	27.6	0.7	31.3	20.3	11.7	0.0	78.5
徳島県	209.1	-11.7	-0.2	0.2	183.8	-12.3	-0.4	1.0	25.4	-7.1	-0.0	-6.6
関西2府4県	9,227.1	-12.8	-11.2	-7.7	5,042.4	-9.5	-7.6	-9.1	4,184.8	-16.4	-16.1	-5.1
関西2府8県	10,693.3	-11.8	-11.8	-6.3	6,358.0	-8.5	-8.5	-7.1	4,281.3	-16.4	-16.4	-4.6
全国	49,105.2	-7.4	-	-2.0	33,743.0	-5.6	-	-1.4	15,362.2	-11.1	-	-3.6

注：表中の赤枠は寄与度が高いTOP3を示している。出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成(図8～9及び表1)

トピックス 3

● 2026 年 4-6 月期訪日外国人消費の動向

▶観光庁によれば、**2026 年 4-6 月期の訪日外国人消費額**(速報、全目的ベース)は(図 11)、**2 兆 5,096 億円**であった(25 年 4-6 月期：2 兆 5,043 億円)。**前年同期比+0.2%、増加幅は前期(同+2.5%)から縮小し、小幅の伸びにとどまった。**中国人客の訪日自粛の影響が続いているが、米国や台湾などが消費を下支えた。

▶**4-6 月期の訪日外国人消費のトップ 5** を国・地域別にみれば(図 12)、**米国**が 3,848 億円(前年同期比+8.5%)と**最多**であった。次いで、台湾が 3,639 億円(同+27.9%)、中国が 2,592 億円(同**-48.8%**)、韓国が 2,589 億円(同+12.2%)、香港が 1,452 億円(同+7.8%)と続く。

▶**一般客 1 人 1 泊当たり旅行支出**(全目的)は 2 万 8,222 円であった。前年同期比+11.3%増加し、2 四半期ぶりのプラスとなった(1-3 月期：同-12.7%)。国・地域別にみれば、ロシアが 4 万 2,149 円(同+56.4%)と最も高い。次いで、中東が 3 万 8,478 円、メキシコが 3 万 7,799 円、香港が 3 万 7,560 円(同+4.7%)、米国が 3 万 5,621 円(同+16.1%)となっている(表 2)。

▶**4-6 月期の 1 人 1 泊当たり旅行支出を費目別**でみれば(表 3)、宿泊費が 1 万 446 円(同+6.7%)と最も多く、次いで買物代が 7,553 円(同+14.8%)、飲食費が 6,135 円(同+14.8%)、交通費が 2,843 円(同+10.5%)、娯楽等サービス費が 1,224 円(同+18.4%)と続いている。伸び率をみれば、すべての費目が前期から増加した。なお、平均泊数は 8.7 泊と、前年同期差-0.8 泊減少した。

注：トピックス 3 は四半期ごとの掲載である。なお、ここでの「全目的」とは、観光・レジャー目的以外に、業務、留学、親族・知人訪問等の目的の旅行者を含む。ただし、1 年未満の滞在者が対象である。

図 11 訪日外国人消費額の推移

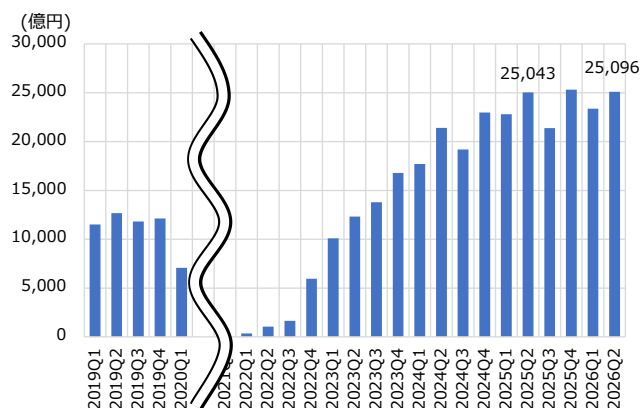
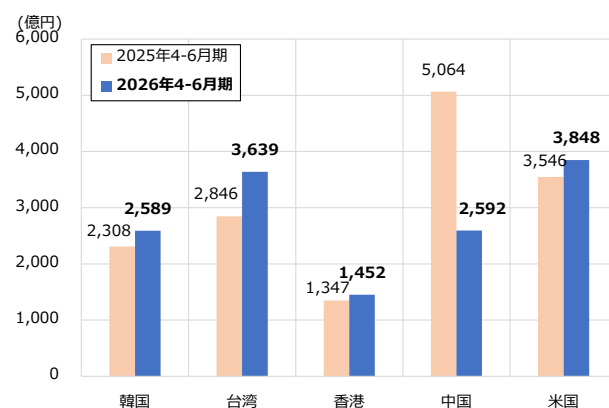


図 12 訪日外国人消費額の上位 5 カ国・地域：
2026 年 4-6 月期



注：「訪日外国人」には、観光・レジャー目的に加えビジネス目的や親族・知人訪問目的などで日本を訪れた外国人が含まれる。日本に居住している外国人は含まれない。「クルーズ客」は船舶観光上陸許可者。2025 年までは確報、26 年 4-6 月期は速報。

出所：観光庁『インバウンド消費動向調査』より筆者作成(図 11～12)

表 2 国・地域別一般客 1 人 1 泊当たり旅行支出(全目的)：2026 年 4-6 月期

国・地域	全体	韓国	台湾	香港	中国	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	フィリピン	ベトナム	インド
2025年4-6月期(円/人)	25,350	27,447	30,115	35,872	30,013	21,994	30,210	26,424	17,808	11,739	6,833	19,687
2026年4-6月期(円/人)	28,222	27,480	32,086	37,560	23,855	30,130	33,618	29,981	15,598	15,518	9,513	22,363
前年同期比(%)	+11.3	+0.1	+6.5	+4.7	-20.5	+37.0	+11.3	+13.5	-12.4	+32.2	+39.2	+13.6
国・地域	英国	ドイツ	フランス	イタリア	スペイン	ロシア	米国	カナダ	メキシコ	オーストラリア	北欧	中東
2025年4-6月期(円/人)	26,640	21,602	20,553	27,734	24,405	26,942	30,678	24,115	N/A	27,950	N/A	N/A
2026年4-6月期(円/人)	32,486	29,177	26,418	29,326	23,837	42,149	35,621	27,056	37,799	27,821	28,361	38,478
前年同期比(%)	+21.9	+35.1	+28.5	+5.7	-2.3	+56.4	+16.1	+12.2	-	-0.5	-	-

表 3 一般客 1 人 1 泊当たり旅行支出(全目的)：2026 年 4-6 月期

1 人 1 泊当たり旅行支出	総額	費目別						平均泊数(泊)
		宿泊費	飲食費	交通費	娯楽等サービス費	買物代	その他	
2025年4-6月期(円/人)	25,350	9,794	5,347	2,572	1,034	6,579	25	9.4
2026年4-6月期(円/人)	28,222	10,446	6,135	2,843	1,224	7,553	21	8.7
前年同期比(%)	+11.3	+6.7	+14.8	+10.5	+18.4	+14.8	-13.8	-0.8

注：メキシコ、北欧及び中東は 2026 年から調査が開始されているため、2025 年同期と比較することができないことに注意。

出所：観光庁『インバウンド消費動向調査』より筆者作成(表 2 及び表 3)。

表 4 2026 年 6 月 訪日外客数 (JNTO 推計値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2025年	2026年	伸率 (%)	2025年	2026年	伸率 (%)
	6月	6月		1~6月	1~6月	
総数	3,377,985	3,148,600	-6.8	21,518,575	21,084,800	-2.0
総数(中国除く)	2,579,984	2,807,900	8.8	16,800,035	19,026,600	13.3
韓国	729,860	787,100	7.8	4,783,598	5,675,100	18.6
中国	798,001	340,700	-57.3	4,718,540	2,058,200	-56.4
台湾	585,070	670,400	14.6	3,284,799	3,972,200	20.9
香港	166,764	214,300	28.5	1,271,056	1,298,500	2.2
タイ	52,059	48,000	-7.8	680,469	704,600	3.5
シンガポール	68,629	68,400	-0.3	345,156	378,700	9.7
マレーシア	28,106	29,900	6.4	323,961	371,400	14.6
インドネシア	51,462	52,700	2.4	335,977	379,700	13.0
フィリピン	63,203	59,900	-5.2	448,115	474,300	5.8
ベトナム	52,935	56,500	6.7	364,638	396,500	8.7
インド	28,623	36,100	26.1	171,126	210,300	22.9
豪州	59,422	63,900	7.5	567,244	593,300	4.6
米国	345,150	354,500	2.7	1,701,427	1,821,700	7.1
カナダ	41,588	44,000	5.8	335,402	362,900	8.2
メキシコ	13,242	13,300	0.4	84,843	109,600	29.2
英国	33,525	36,200	8.0	271,042	286,600	5.7
フランス	27,105	28,100	3.7	209,731	227,300	8.4
ドイツ	23,912	20,500	-14.3	202,812	218,000	7.5
イタリア	20,126	21,500	6.8	136,017	135,200	-0.6
スペイン	18,160	20,500	12.9	98,261	106,000	7.9
ロシア	11,947	12,800	7.1	83,691	104,400	24.7
北欧地域	18,326	22,100	20.6	94,421	109,300	15.8
中東地域	17,420	22,600	29.7	115,790	128,200	10.7
その他	123,350	124,600	1.0	890,459	962,800	8.1

表 5 2026 年 4 月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2025年	2026年	伸率 (%)	2025年	2026年	伸率 (%)	2025年	2026年	伸率 (%)	2025年	2026年	伸率 (%)
	4月	4月		4月	4月		4月	4月		4月	4月	
総数	3,909,128	3,692,364	-5.5	3,587,187	3,346,567	-6.7	104,072	97,215	-6.6	217,869	248,582	14.1
韓国	721,672	878,579	21.7	691,647	847,659	22.6	15,101	15,505	2.7	14,924	15,415	3.3
中国	765,189	330,776	-56.8	677,319	243,674	-64.0	25,499	18,395	-27.9	62,371	68,707	10.2
台湾	537,638	643,477	19.7	523,015	627,823	20.0	7,622	8,063	5.8	7,001	7,591	8.4
香港	263,649	225,991	-14.3	259,614	222,076	-14.5	1,950	1,875	-3.8	2,085	2,040	-2.2
タイ	158,470	164,841	4.0	153,691	160,002	4.1	2,046	2,074	1.4	2,733	2,765	1.2
シンガポール	59,996	62,940	4.9	57,706	60,337	4.6	1,837	2,140	16.5	453	463	2.2
マレーシア	51,159	60,426	18.1	48,393	58,012	19.9	1,255	1,218	-2.9	1,511	1,196	-20.8
インドネシア	61,380	62,200	1.3	45,309	40,465	-10.7	985	1,043	5.9	15,086	20,692	37.2
フィリピン	90,973	88,422	-2.8	77,616	73,714	-5.0	7,207	7,465	3.6	6,150	7,243	17.8
ベトナム	64,089	76,029	18.6	27,276	33,345	22.3	3,005	3,090	2.8	33,808	39,594	17.1
インド	37,352	41,866	12.1	29,466	33,874	15.0	4,341	4,300	-0.9	3,545	3,692	4.1
豪州	115,235	102,479	-11.1	112,789	99,845	-11.5	1,558	1,716	10.1	888	918	3.4
米国	327,542	330,052	0.8	313,531	315,094	0.5	10,020	10,491	4.7	3,991	4,467	11.9
カナダ	72,587	70,296	-3.2	70,853	68,615	-3.2	921	834	-9.4	813	847	4.2
メキシコ	21,793	21,185	-2.8	21,385	20,754	-3.0	180	158	-12.2	228	273	19.7
英国	69,496	59,856	-13.9	65,856	56,218	-14.6	1,982	2,243	13.2	1,658	1,395	-15.9
フランス	57,066	59,248	3.8	53,414	55,647	4.2	1,939	1,921	-0.9	1,713	1,680	-1.9
ドイツ	57,188	48,527	-15.1	54,158	45,027	-16.9	2,229	2,538	13.9	801	962	20.1
イタリア	45,592	29,967	-34.3	43,701	28,378	-35.1	1,175	996	-15.2	716	593	-17.2
ロシア	23,170	25,823	11.5	21,313	24,299	14.0	1,356	930	-31.4	501	594	18.6
スペイン	24,248	19,045	-21.5	23,468	18,099	-22.9	391	536	37.1	389	410	5.4
中東地域	28,363	22,272	-21.5	26,431	21,188	-19.8	880	599	-31.9	1,052	485	-53.9
その他	255,281	268,067	5.0	189,236	192,422	1.7	10,593	9,085	-14.2	55,452	66,560	20.0

注：目的別訪日外客数の定義については、レポート No.79 図 3 の注を参照。表中の赤枠は過去最高を更新した国及び地域
出所：日本政府観光局(JNTO)、2026 年 7 月 15 日付より筆者作成(表 4~5)